

◇ 宮 城 良 治 議員

○ 2 番（宮城良治） 新型コロナウイルス関連についてお伺いします。

大宜味村では、現時点で9名の方が新型コロナウイルスに感染されました。新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者の詳しい情報が県のほうから入ってこないという状況だと思いますが、2点伺います。

①村内の感染された方や濃厚接触者からの相談や支援の要請などがあつたのか伺う。

②コロナ対策は徹底的にPCR検査をすることだと言われております。昨年9月頃から内地のほうでは民間事業者で3,000円以内でPCR検査が受けられるようになり、現在では那覇市を中心に安価な価格でPCR検査が受けられるようになってきているが、情報収集などは行っているのか伺います。

○ 村長（宮城功光） お答えいたします。

①については、これまで感染者及び濃厚接触者本人からの相談等はございませんが、一度、区長から濃厚接触者の件で相談はございました。

②については、県が行っているPCR希望者検査促進事業のことだと思っておりますが、そういった事業があることはこちらでも把握しております。議員からもありましたように、主に那覇市を中心にうるま市、浦添市で実施

されており、県が検査費用のうち 8,000 円を助成しているとのこと。

○ 2 番（宮城良治） じゃあ、まず①からです。

区長からの相談があったというのは、多分喜如嘉のことだと思いますけれども、やっぱり村内には頼ることができないひとり暮らしの方とか移住者の方がいると思います。濃厚接触者とか感染者になった場合、その方々は外に出ることができないわけですから、買い物に行きたくても行けないんです。そうすると、食べるものがない。そういうことをもし村のほうで相談できる窓口などがあれば、今、村のホームページとかを見ても、大体相談するのは県の保健所とかそういうところに相談するようになってるんですけども、村の福祉課などにこういう相談、感染された方とか濃厚接触者の方が相談できるようなところ、気軽に相談できるところを検討していただけないか伺います。

○ 住民福祉課長（佐久川紀亮） お答えいたします。

感染者についての検査とか、そういったことに関するものに関しては保健所等で相談をしていただいております。先ほど買い物とかそういうものができないという話でありましたが、濃厚接触者については、基本的に保健所からのお願いとして自宅待機するようということではありますが、生活にどうしても必要なものに関しては出てもいい。もちろん、買い物も、

ご飯を食べることはできないというのは生活上できないと思いますので、そういったものに関しては、必要最小限の行動についてはいいということになっております。そこについてもあくまで強制ではなく、協力依頼という形になります。もし仮に、風評被害とかそういったものでの相談等がありましたら、住民福祉課のほうに相談いただくようにということで、こちらについてはホームページでも公表しております。その他に関しても何か相談があれば、うちの課のほうに相談いただけたらと思います。

○ 2番（宮城良治） ぜひ、もし困っている方がいれば、住民福祉課のほうで相談していただける体制をつくっていただきたいと思っております。

次に支援のあり方についてですけれども、本来であれば、国とか県のほうに要請するべき話だと思いますけれども、村独自で、もしできればですけれども、感染者、あと濃厚接触者の方に、今、緊急支援貸付けとかがあると思いますけれども、感染者とか濃厚接触者に対して支援金とかを出すことを検討していただけないかと思っています。それはなぜかというと、感染者はもちろんですけれども、濃厚接触者も、先ほど協力とは言いましたけれども、2週間程度自宅待機、仕事も出ることができなくなります。そうすると、その間、仕事ができないわけですから収入がその分減ります。

そうするとどういうことが起こってくるかといいますと、自分の生活が苦しくなる、家族を守るためには仕事に行かないといけないので、感染者の方に自分は濃厚接触者から名前を外してくれないかという事例が今あるそうです。もしそういう方が感染していた場合、村内での感染拡大が予想されますので、その辺、検討していただきたいと思います。以上です。

○ 住民福祉課長（佐久川紀亮） お答えいたします。

感染者については、例えば国保加入者であれば傷病手当金等の補償等もこちらとしては準備をしております。ただ、濃厚接触者については、そもそも、感染者についても一緒ですが、役場のほうで把握できない状況にあります。また仮に把握したとしても、感染者に比べ、濃厚接触者の方に関しては人数も多くなると見込まれます。それに対してどれほどの財源等が必要なのかというところも、こちらでは把握できないというのもあります。先ほどお話しがありましたように、社会福祉協議会のほうでも緊急貸付けとかそういう制度もございますので、基本的にはそちらのほうでの支援を受けて、そういった声がほかに必要ということであれば、またその中で検討していきたいと思います。

○ 2番（宮城良治） ありがとうございます。村内大宜味村では、こども園とか小学校とか、今一つにまとまっている状況で、福祉施設もありま

す。そういうところで、もし感染拡大した場合、クラスターなどのおそれ
も考えられますので、やっぱりちょっと濃厚接触者の方にも手厚い支援と
かができたらと思っております。

次、②に移ります。大宜味村はいち早くコロナウイルスの検査体制を整
え、せきや発熱、倦怠感などの症状があり、コロナの疑いがある場合には
すぐに診療所での検査が受けられるような体制を整えてきました。非常に
早い対応だったと評価しております。現在、変異種が沖縄県のほうでも出
てきております。今後、4月後半から5月にかけて第4波が来るだろうと
言われはじめてきております。

次に、今後取り組んでほしいことですが、無症状の方でも、保険
適用外であっても、安価でPCR検査が受けられることができる体制づくりに
取り組んでいただきたいと思っております。現在、県議会会派でつくった
コロナ対策プロジェクトチームが自治体向け、格安検査の説明で市町村を
回っているということを伺ったので、先日今帰仁村役場の村長室のほうで
一緒に話を聞かせていただきました。沖縄唯一の不活化方式を採用した高
精度のPCR検査を行っているようです。もちろん保健所とも連携してい
るようです。検査したい人を集めて、検体を取って郵便で送るだけのよう
です。検体採取キットの中に不活化液というのが入っていて、資料をお持

ちだと思えますけれども、この不活化液でタンパク質を不活化することで常温輸送が可能になったり、感染能力を阻害することで安全に扱うことができるそうです。この高精度というのがあるんですけれども、今までのPCR検査は厚労省がJPN-N2というのみの判定で承認をしているようです。でもそれだと見逃しがまだ多いようですので、今回の提案されていたものでは4つの検査を行い判定することで精度を高めているようです。価格は先ほど村長からもありましたけれども、県が8,000円補助し、個人負担が2,500円となっておりました。しかし、他市町村ではさらに市町村で1,000円とか1,500円の補助をし、個人負担を減らすことで気軽に検査を受けられる体制を検討しているようです。ぜひ大宜味村でも検討していただきたい。特に福祉関係は多分老人福祉施設などで行うPCR検査は県の補助でやっていると思えますけれども、障がい者施設、あとは学校関係者、観光関係者など安価な価格なら定期的に検査が受けられ、安心して仕事ができるのではないかと思います。これは役場職員でもそうだと思います。第4波が来る前に、村民が安心して、安全に暮らしていけるように体制を整えていく必要があると思いますが、どうでしょうか。

○ 住民福祉課長（佐久川紀亮） お答えいたします。

先ほどもありましたように、この事業に関しては県から8,000円の助成

があります。村内では12月以降感染者も発生しておらず、現時点で今すぐこの事業に取り組むということはありませんが、今後の状況によって、またコロナの地方創生臨時交付金等を活用できるか等も踏まえて検討していけたらと思います。

○ 2番（宮城良治） 今後の状況を見ながらということ、発生してからでは遅いんです。発生する前から、第4波が来る前から取り組んでいく必要があると思いますので、その辺、深く情報収集、ほかの市町村からの情報収集を取りながら、本当に前面に立って対応していただきたいと思っています。以上です。

○ 村長（宮城功光） この件については、民間のPCR検査機構株式会社という会社なんですけれども、そこから私は説明も受けました。ただ、やはり役場担当課に来てちゃんとした説明をしなければ、対応は非常に厳しいですよということで、役場に説明をお願いしたんですけれども、まだ来ていないようです。正直なところ、この契約を締結するためには10万円の締結費が出るという話までしておりました。さっき議員から言ったように、村が1,500円を出して、本人負担は1,000円にしていくなだという市町村もあるという話も聞いております。ただ、今、課長から説明があったように12月18日以降、本村では感染者が発生していない状況の中で、

果たして今、このコロナ対策協議会で協議する段階ではないんじゃないか
ということで、今のところ、まだしっかりと向こうから、事業者のほうか
らの説明があれば対処できるのかなという思いをしておりますので、その
辺については御理解いただきたいと思っております。